

令和 2 年 6 月 26 日現在

機関番号：22701

研究種目：挑戦的研究(萌芽)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K19828

研究課題名(和文)高齢者介護家族を含めたマルチプルケア(多重介護)の実態と概念化

研究課題名(英文)Current status and conceptualization of multiple care including eldercare at home by family

研究代表者

叶谷 由佳(KANOYA, YUKA)

横浜市立大学・医学部・教授

研究者番号：80313253

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,800,000円

研究成果の概要(和文)：全国の介護支援専門員を対象として多重介護の実態についての質問紙調査を行った。3,123の居宅支援事業所のうち、446居宅支援事業所から返送があった(回収率14.2%)。多重介護の関わりの有無は「有」と回答した居宅介護支援専門員が337人(82.4%)、「無」72人(17.6%)であった。多重介護の経験件数の平均は 6.3 ± 8.2 件であった。関わった事例について、多重介護のパターンは「介護+介護」が245件(72.7%)と最も多く、「3人以上の介護」182件(54.0%)、「介護+子育て」174件(51.6%)も半数以上の居宅介護支援専門員が経験していた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

高齢者を少なくとも1名介護している家族介護者は多重介護を経験している人も多く、様々な専門家が支援を行っていても課題があり、支援する専門家も困難感を感じている。そのため、各支援の専門家が領域の枠を超えて課題を共有することによって解決策を見出したり、また、支援の場を広げていく可能性があることが重要である。また、多重介護者の課題の1つに縦割り制度の弊害もあり、どういう制度が必要か検討していくことも重要である。

研究成果の概要(英文)：A questionnaire survey was conducted on the actual conditions of multiple care for care managers nationwide. Of 3,123 care manager's offices for home support, 446 returned (recovery rate 14.2%). There were 337 (82.4%) care managers who answered "yes" regarding the support experiences for multiple care, and 72 (17.6%) none. The average number of multiple care cases was 6.3 ± 8.2 . Of the cases involved, the most common pattern of multiple care was "nursing + nursing" at 245 (72.7%), "nursing for 3 or more" 182 (54.0%), "nursing + parenting" 174 (51.6%). These cases were also experienced by more than half of the care managers.

研究分野：老年看護学

キーワード：高齢者 家族介護者 多重介護 育児 介護支援専門員

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

日本ケアラー連盟が2010年に実施した調査によると2000人の介護者のうち25%が複数のケアを行っている結果が示されている¹⁾。結城(2015)は、2014年に介護支援専門員99人のアンケート調査から6割以上の介護支援専門員が多重介護のケースに関わっていることを明らかにしている²⁾。これらの結果から多重介護を行っている家族が一定数存在することがわかる。テレビの特集などによって、近年、多重介護の問題は徐々に顕在化してきているが、多重介護に関連する先行研究はほとんど検索されない。他方、育児と介護のダブルケアに関する先行研究はその数は多くはないが、いくつか報告されている³⁾⁻⁵⁾。これらより、育児を切り口とする育児と介護のダブルケアに関してはその実態が明らかになりつつあるが、高齢者介護を含めた、複数の家族を介護する「多重介護」については、介護の対象の続柄、対象の年齢など多重介護の定義は様々であり、その全体像が俯瞰できていない現状にある。

2. 研究の目的

高齢者介護を行なっている家族を切り口に、マルチプルケア(多重介護)を行っている家族に関わる機会が多いことが予測される居宅介護支援専門員を対象に調査を行い、どのような多重介護がどの程度存在するか、多重介護を原因とする離職等の課題や行われている支援等の現状および多重介護ならではのニーズを明らかにすること

3. 研究の方法

全国の都道府県を高齢化率の高い、中程度、低い3群に分け、各群を総人口の中央値で2群に分け全6群から無作為に1都道府県を選択し、合計6都道府県を選択した。その都道府県の居宅介護支援事業所のうち乱数表を用いて1/2抽出し、それらの対象施設の介護支援専門員の代表者各1名を対象として多重介護の実態についての質問紙調査を行った。

4. 研究成果

調査票が配布された3,123の居宅支援事業所のうち、投函期限までに446居宅支援事業所から返送があった(回収率14.2%)。多重介護の関わりの有無は「有」と回答した居宅介護支援専門員が337人(82.4%)、「無」72人(17.6%)であった。多重介護の経験件数の平均は6.3±8.2件であった(表1)。関わった事例について、多重介護のパターンは「介護+介護」が245件(72.7%)と最も多く、「3人以上の介護」182件(54.0%)、「介護+子育て」174件(51.6%)も半数以上の居宅介護支援専門員が経験していた(表2)。被介護者数が最も多い多重介護の主介護者について、就労状況

表1 多重介護事例の関わりの有無と事例数

		n(%)	
多重介護事例の関わりの有無(n=409)	無	72(17.6)	
	有	337(82.4)	
		n	平均±SD
経験した多重介護の事例数		337	6.3±8.2

表2 多重介護事例の内容

		n=337	
		n	%
多重介護のパターン (複数回答)	介護+介護	245	72.7
	3人以上の介護	182	54.0
	介護+子育て	174	51.6
	障害者の介護+要介護者の介護	152	45.1
	3人以上の介護+子育て	61	18.1
	障害者の介護+要介護者の介護+子育て	23	6.8
	障害者の介護+3人以上の介護+子育て	9	2.7
主介護者1人に対して	1人	10	3.0
	2人	173	51.3
	3人	108	32.0
	4人	33	9.8
	5人	6	1.8
	6人	3	0.9
専門職としての多重 介護への支援内容 (複数回答)	利用サービスの内容調整	256	76.0
	精神的支援	240	71.2
	主介護者への支援社会福祉サービス知識の提供	201	59.6
	家族支援	201	59.6
	他職種との関係調整	193	57.3
	介護する人の生きがいづくり	52	15.4

本研究で明らかになった多様な介護形態と、主介護者がおかれた環境についての知見をもとに、関係職種との連携や主介護者が一人で抱え込み、孤立しないような関わりが重要であるとの示唆を得た。この結果を基に、2020年3月に公開シンポジウム「高齢者介護を取り巻く多重介護の課題と対応」実施し

た。シンポジストとしてダブルケアに関する研究の第一人者である横浜国立大学相馬直子教授に高齢者介護家庭を取り巻く現状について、また医療が必要な高齢者介護の多重介護の実態と課題については、介護支援専門員、訪問看護師、老人専門看護師として退院支援に携わっている看護師より講演後、ディスカッションを行った。様々な立場で支援を行っており、領域の枠を超えて課題を共有することによって解決策を見出したり、また、支援の場を広げていく可能性があることが示唆された。また、多重介護者の課題の1つに縦割り制度の弊害もあり、どのような制度が必要か検討していくことも重要であることが示唆された。

図1 主介護者の就労状況

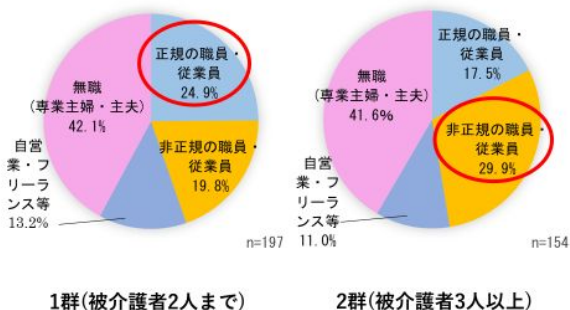
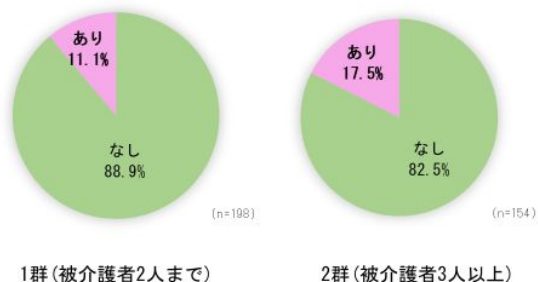


図2 主介護者の退職の状況



引用文献

- 1) 平成 22 年老人保健事業推進費等補助金老人保健健康増進等事業「家族（世帯）を中心とした多様な介護者の実態と必要な支援に関する調査研究」報告書
- 2) 結城康博 . 結城先生の超わかるニュース解説「多重介護」から見える介護者の危機. おはよう 21:4-5, 2015
- 3) 内閣府（株式会社 NTT データ経営研究所委託）. 平成 27 年度育児と介護のダブルケアの実態に関する調査報告

書. http://www.gender.go.jp/research/kenkyu/pdf/ikuj_i_1_mokuji.pdf (2016 年 4 月 29 日アクセス)

- 4) 今野範子, 足立智昭. 在宅で「育児と介護を同時進行」している人への家族支援についての考察. 育児と介護を同時進行させた体験者に関する実態調査から見えてくるもの. 家庭教育研究所紀要. 31:5-15, 2007
- 5) 山下順子, 相馬直子. 第 5 弾ダブルケア実態調査 (ソニー生命連携調査), ダブルケアに関する調査 2015, 2015

表3 5人・6人介護の内容

	6人介護	5人介護		
主介護者 属性	60代女性既婚	20代既婚女性	40代女性離別/死別	40代男性
健康状態	軽度認知症	良好	通院している	良好
就労	無職	無職	正規職員	正規職員
介護による退職	なし	なし	なし	
介護協力者	配偶者と子	2人	1人(おば)	
被介護者 1人目	90代男性 同居 義父 要介護 1	90代男性 同居 義父 要介護 5	80代男性 同居 実父 要介護 4	90代女性 同居 実母 要介護 1
2人目	60代男性 同居 夫	90代女性 同居 義母 要支援 2	80代女性 同居 実母 要介護 5	40代女性 同居 妻 出産うつ
3人目	30台男性 同居 子供	70代男性 別居 実父 要介護 1	50代男性 別居 その他 障害者手帳	9歳以下男性 同居 子供 乳幼児
4人目	10代女性 同居 孫	10代女性 同居 子供 中学校	10代女性 同居 子供 中学校	9歳以下男性 同居 子供 乳幼児
5人目	孫 小学生	子供 小学生	子供 高校生	子供 新生児
6人目	孫 小学生			

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 榎倉朋美、柏崎郁子、佐々木晶世、叶谷由佳
2. 発表標題 高齢者介護を担う介護者の多重介護の現状
3. 学会等名 日本看護研究学会第45回学術集会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	柏木 聖代 (KASHIWAGI MASAYO) (80328088)	東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・教授 (12602)	
研究分担者	土肥 真奈 (菅野) (DOI MANA) (50721081)	横浜市立大学・医学部・准教授 (22701)	
研究分担者	佐々木 晶世 (SASAKI AKIYO) (90538018)	横浜市立大学・医学部・講師 (22701)	
研究分担者	杉本 健太郎 (SUGIMOTO KENTARO) (80724939)	千葉県立保健医療大学・健康科学部・講師 (22501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	野崎 静代 (NOZAKI SHIZUYO) (90761271)	横浜市立大学・医学部・助教 (22701)	
研究 分 担 者	本多 由起子 (HONDA YUKIKO) (90782219)	熊本大学・大学院先端科学研究部（工）・研究員 (17401)	